

松の湯レター vol.7

平成28年 1月からのイベント情報

松の湯交流館企画・協力

手作りハンドクリームワークショップ

1/16 (土) 10:30~12:00 講師:日高佳子さん 受付開始:1/5~

乾燥が気になってしまう時期、アロマの香りに癒され手作りなめらかハンドクリームをつくってみませんか? 安心な天然材料でつくるのでかぶれる心配もありません。

もらってうれしいラッピング講座

1/30 (土) 10:30~12:00 講師:おかしのオクムラさん

黒石市のかわいいお菓子屋さんに教わる、相手に喜ばれるラッピング講座を実施します。不器用さんでも大丈夫! バレンタインに向けてラッピングを学びましょう!



写真はイメージです。

つくって灯そうキャンドルナイト

2/6 (土)

田舎館で開催されるスノーシューを履いた足跡で幾何学模様を描くスノーアートとタイアップして、松の湯交流館でキャンドルワークショップを実施します。簡単にキレイなキャンドルを作って、冬のごみせ通りに暖かい火を灯しませんか?



本物そっくり!? カップチョコフェイクスイーツ

2/13 (土) 10:30~12:00 講師:浅利梨郷さん

食品サンプルやスイーツデコとはまた違う日本初の新しいクラフト、フェイクスイーツづくりを体験。思わず食べてしまいそうなフェイクスイーツのカップチョコをつくろう!



こぎん刺しワークショップ

3/5 (土) 10:30~12:00 講師:内本明美さん

☆申し込み受付は実施日の14日前からです。

参加申込・お問い合わせは松の湯交流館まで

※イベント内容は変更になる場合があります。

年末年始 休館のお知らせ: 12月28日(月)~1月4日(月)

松の湯レター Vol.7

発行日:2015年12月21日

発行:黒石市

企画:NPO法人まちづくりデザインサポート

編集制作:NPO法人横町十文字まちそでて会

おかげさまで、vol.7が無事発行となりました。今回もたくさんの方々のご協力に感謝いたします。銭湯時代から今日まで松の湯と関わり見守ってこられたごみせ観光ボランティアガイドの会、小野せつ子会長の貴重なお話を聞くことができ、改めて松の湯交流館の素晴らしさを実感しました。これからも「想いを伝える建物」としてより多くの皆さんに松の湯交流館が愛されますように...次号は春です! お楽しみに!(端田)



〜温故知新〜
想いを伝える松の湯交流館

- 松の木便り : 8月~12月に行われたイベント紹介
- トピックス : 松の湯交流館が黒石市小さなまちかど博物館に認定
- 松の湯コラム : プロトデザイン 中村勝彦さん
- 施設紹介 : 集いの蔵「十文字カフェ」
- インタビュー : ごみせ観光ボランティアガイドの会 会長 小野せつ子さん
- イベント情報 : 平成28年1月からのイベント情報

松の木便り



松の湯交流館では、自主企画のほかにグループ・団体の活動や発表などで、常時さまざまな催しを開催しています。今まで催されたワクワクなイベントを、松の湯レターでご紹介します。

せっけんづくりワークショップ



松の湯交流館初のワークショップ！講師にリフレクソジスト・アロマセラピーアドバイザーの日高佳子さんを招き、アロマのせっけんづくりを行いました。好きなアロマを混ぜ、こねるだけ！大人も子供も楽しそうに自分だけのオリジナルせっけんを作っていました。

●開催日：8/29 ●主催：松の湯交流館

B-1グランプリを応援！みんなの金魚ねぶた展示



B-1グランプリで地元グルメのつゆやきそばを応援するため、市長や地元の子供たちの手で作られた金魚ねぶたを黒石インフォメーションに展示。展示された金魚ねぶたはB-1グランプリ当日会場に来てくれた方の手に渡されました。

●開催日：9月下旬～10月上旬
●主催：黒石つゆやきそばHAAPY麵恋`ジャー

個性心理学講座(全3回)



しばたけんじさんをお呼びして個性心理学講座を実施しました。自分自身と相手の個性を知ることでストレスを減らし、今よりもっと楽しくなるというこの講座はあっという間に定員いっぱい。笑いや感嘆の音があがり、話をきけてよかったという方がたくさんいらっしゃいました。

●開催日：10/8、11/7、12/5 ●主催：松の湯交流館

松の湯交流館は使い方いろいろ！

イベント・コンサートの他にも会議や集会など利用方法はさまざま。詳しくはお電話、または交流館スタッフまでお気軽にお尋ねください。

TOPICS

平成27年度 黒石市小さなまちかど博物館に松の湯交流館が認定されました。

ものづくりの技店、販売の技人、資料、建物など、小さな個性をその土地ならではの「文化」としてとらえた新しい形の博物館「黒石市小さなまちかど博物館」に、松の湯交流館が選ばれました。これまで認定されたのは全部で21ヶ所。どれも魅力的なものばかりです。マップを片手に博物館を巡ってまちなか散策をしてみてください。



お知らせ

「松の湯」の情報をお寄せください。

もともと銭湯だった「松の湯」は、ある時代では床屋や駄菓子やを同時に営んでいたといわれています。その時代の写真などありましたら、交流館まで情報をお寄せください。



昭和7年当時の松の湯

松の湯コラム ②

MATSUNOYU COLUMN

松の湯レターでは、毎回さまざまな方に寄稿していただき、コラムとしてご紹介します。第2回目は松の湯交流館、市民サロンに飾ってある素敵な水彩画を描いた東京在住の中村勝彦さんです。



古調のまちの訴求

プロトデザイン 中村勝彦さん

「松の湯交流館」いい名前ですね。まちづくりの新しい拠点、その黒石らしさの訴求にはブランドのメッセージ性が明快にこもっています。「古調」は黒石のキーワード。アイデンティティです。

私は内町、新坂上のくるまの生まれ。子供の頃、黒石神社の境内で遊び、御廟通りを抜け、上坂を左へ、中町、浜けんどをめざして道ばたの堰の流れのひびきに誘われて、一本の筋どおり、こみせ通り、屋根から突き出た松の木の松の湯を訪ねたことがあった。

ドンパ中と言われた黒石中時代(昭・33年卒)の3年間、理科の佐忠(さつちゆう)先生に気象観測係を命じられて浅瀬石川・大川のほとりにたつ百葉箱をのぞいて記録した。その空気感が忘れられない。先生は几帳面でチョークにはティッシュを巻いて、丁寧な板書で理科を教わった。私は物を観察したり、自然を描いたりするのが好きになって、デザインの仕事に興味を持つようになったのも佐忠先生のおかげです。実は松の湯は、佐忠先生のご実家なのです。

私は東京・本郷でデザインのアトリエを営みました。イメージを決める時、その元は黒石の子供の頃に見た原風景とその空気感に触発されています。それはふるさと故郷への感謝です。『ふるさと黒石ってどんなところ?』とよく聞かれます。そんな時、私は絵を描いて見せていただきます。黒石の観光大使として今後も黒石を応援していきます。

12月～3月は月曜日休館となります

松の湯交流館

〒036-0377 青森県黒石市大字中町33

●開館時間／9:30～18:00 ●休館日／夏期無休(4～11月)、冬期毎週月曜日(12～3月、ただし月曜が祝日・振替休日の場合はその翌日)
●十文字カフェ営業時間／11:00～16:00 ●十文字カフェ定休日／毎週月曜日

tel.0172-55-6782 fax.0172-55-6783

施設紹介 ②

集いの蔵「十文字カフェ」

交流館に隣接する「蔵」は、日常のちょっとした合間にホットできるカフェとして利用されています。NPO法人横町十文字まちそだて会がテナント運営している「十文字カフェ」です。マレーシア出身のLeeNyokPengさんがプロデュースする本場のマレーシア料理やセレクト雑貨、シーズンには地元の高冷地野菜などの販売をしています。



本場マレーシア料理

一番人気のココナッツチキンスープカレー、辛さを調節できるマレーシアチキンライスやまぜ麺は毎日数量限定。すべてテイクアウトもOKです。



タピオカ新メニュー登場!

12月からタピオカミルクティーに新たな仲間が誕生!イチゴ・ピーチ・マンゴー・抹茶が加わり、全部で5種類。カラフルなタピオカがランチやスイーツを彩ります。



午後のひとときスイーツセット

1杯ずつ丁寧にドリップするおいしいコーヒーやドリンクと一緒に、絶品のアップルパイなど4種類から選べるスイーツを食べながらホットとくつろぎタイム。



作家さんのこだわりの手しごと

店内では黒石市民6人の作家さんによるパッチワーク、フローチ、アクセサリーや、津軽塗をモチーフにしたポチ袋などのセレクト雑貨約50点を展示、販売しています。



店内は4人掛けのテーブルが4つ。和とアジアニストが調和して落ち着いた雰囲気。

リノベーションで今に甦らせた生活空間としての「蔵」

プライベートな部分のため知っている人は少ないかもしれませんが、松の湯には土壁・漆喰で造られた蔵がありました。蔵の周りには雪国特有の「鞘壁(さやかべ)」と呼ばれる板塀で囲われ、入口部分には悪天候でも作業が出来るように屋根を伸ばしたスペースがありました。これらの構造は改修でも再現され、現在はテラスとして活用されています。



想いを伝える松の湯交流館 インタビュー

黒石は奥が深〜い町・・・
そこに住む人のドラマやストーリーを伝えたい。

黒石に生まれ育ち、小さい頃は銭湯松の湯に通い、再建の時はいち早く足を踏み入れ庭の草取りを手伝ったりと思い入れも人一倍。現在、こみせ観光ボランティアガイドの会(以下、会)で黒石の顔として活躍する小野せつ子会長から会結成15年と変貌を遂げた松の湯への想いを語ってもらいました。

あつという間の15年・・・

初代を引継ぎ私、2代目なんです。H12年に結成したからH27年で15年かな?若さゆえ、流れで引き受けて10年以上(笑)。辛いとかは全くなかったですね。むしろ好きなことをしているからあつという間だった気がします。10人くらいからスタートして現在35人。会員のみなさんには感謝以外の言葉が見つからないですし、初代の小野利男先生はとても博識ながら・・・気さくでいろいろと助けられましたね。初代がいたからここまで頑張ってきたんだと思います。

15年を振り返ってこみせの町並みも変わってきてますし、H17年に重要伝統的建造物群保存地区(通称:重伝建地区)に選定されてから少しずつ人がこみせに集まってきたような気がします。でも何と言っても5年前に青森新幹線が開通して明らかに人の流れが変わりましたね。こみせの認知度がグンと上がったと感じています。今は、こみせに観光客の方や地元の方が歩いているとホッとしますね〜(笑)

ガイドで黒石の奥深さを知る

今はインターネットで歴史でも何でも調べられますよね?だからインターネットには載っていない、そこに住んでいる人でないとわからないこと、わからないものをお客さんは聞きたがっているような気がするんです。それを知ることが「ここにきた!」って実感して感動していくのだと思います。木1本でもそこにドラマがあってストーリーがあるように歴史がある建物に人が関わることでたくさんのドラマやストーリーがあります。そういうところを伝えるというのが大事なんだと感じています。

30分かけて銭湯松の湯へ・・・

銭湯の松の湯はよく入りにきましたよ〜。私、六郷学区で上十川だから家から一番近いのが松の湯なんです。まっすぐ歩いて30分。往復1時間かけて来ましたね。昔は青山(自動車学校)のあたりは野原で何もなくてここまでくるのに本当に大変だったんですよ〜(笑)。だけど、決まり事のように

通ってましたね。当時はお風呂の日ってあって、特別な日なんです。銭湯での印象はとにかく深かったのを覚えています。昔のお風呂はみんな深かったんでしょうね。浴槽が残っているから今見てもやっぱり深い(笑)。でも深いからお湯が冷めにくかったんだろうし・・・今は狭い感じがするけど当時はお風呂場がとても広く感じましたねえ。

松の湯交流館は想像以上!

H20年に文化庁の補助をもらって市が買い取った時に、ボランティアで建物の片付けや掃除をすることになって、私がたまたま手伝いに来た時は庭園の草取りをしました。荒れ果ててしまっただけで庭園の影もなかったです・・・でも草を取っているうちに飛石らしき石が顔を出してきて『もしかしたらここも大石武学流の庭園なんじゃないの?』って思いながらひたすら草を取りましたね。今思えば、松の湯交流館(以下:交流館)とは草取りをした時から縁があったんだと思います。草取りから始まって、交流館が完成するまで様々なワークショップを経験してどんな建物に生まれ変わるかわくわくしながら見守ってました。そして完成した交流館を見て想像以上に素晴らしかったです。何が素晴らしかったって、建物を作る人達がただ復元する、そのまま再建するのではなく、ここに住んだ人達の想いやこれから使う人のことを考えた『想いを伝える建物』だということなんです。柱や扉、そして意外な物を残してくれたり、交流館のどこにいてもそれが感じられるから素晴らしいんです。

歴史ある日本家屋はみんなそうなんだけど、縁側や畳など日本の美は『座って拝見する文化』。それがとても良く表現されている建物だと思います。それでいながらイスがあったり現代の文化と調和がとれています。

完成後、会の拠点は交流館でしたが、ここが出来たことによってこみせ通りの距離が長くなりましたよ(笑)。それに人の流れが見えるし、観光パンフレットはかなり出る!すぐ無くなります(笑)。よく聞かれるのは駐車場ですね。観光客の方が交流館に来て一番びっくりするの

お風呂場は宝物!

完成後、会の拠点は交流館でしたが、ここが出来たことによってこみせ通りの距離が長くなりましたよ(笑)。それに人の流れが見えるし、観光パンフレットはかなり出る!すぐ無くなります(笑)。よく聞かれるのは駐車場ですね。観光客の方が交流館に来て一番びっくりするの

観光客の方が交流館に来て一番びっくりするの



小野せつ子さん
青山在住。こみせ観光ボランティアガイドの会会長。

はお風呂と番台!(笑)「わあ!」とまず一声。ここで盛り上がり、子どもから大人までみんな浴槽に入ります。お湯は入ってないけどなぜか本当のお風呂に入るようなしぐさ、おそろおそろ入る感じ?!になって浴槽にしゃがんですっぽりつかったとたん誰でも「はあ〜」って『温泉に(湯さ)入っている時のような、とてもいい顔になる』のがとても印象的ですね。特に男の方は子供のような無邪気な顔になるんですよ〜(笑)。このお風呂場を残したのはすごいなと思います。まさに宝物!

もう一つのガイドの役割

交流館ができて市役所の方やいろんな人と関わりを持てるようになったこと、そしてみんな同じ目線で接することができるのがいいですね。私の姉が田舎館にいますけど、サークルの反省会で交流館を使用するって聞いてうれしくなりました(笑)。是非、市民の皆さんにもたくさん交流館を利用してほしいと思います。

観光も大切ですが地元の皆さんに黒石の良さを知ってもらうこともガイドの役割として大きいと思います。これからは市民が楽しめるような「市民による市民のためのまち歩き」を行って、もっと黒石に興味を持ってもらえるようにしたいです。

また会では随時ガイドも募集しています。自分史にも繋がりますので興味のある方はお気軽に声をかけて下さいね!

(2015年11月24日 聞き手:端田裕花)

【こみせ観光ボランティアガイドの会】

○こみせに変化を持つ人たちがこみせ通りの歴史・文化についてまち歩きを行い、黒石市への理解とまちづくりに寄与することを目的としている。またガイド会員の自主的な勉強会や研修会も開催している。平成23年には青森県の観光振興に顕著な功績のある人・団体を表彰する「観光功労者」(青森県観光連盟主催)に選ばれた。
○活動は4月下旬〜10月下旬までの毎週土・日・祝祭日 案内所で待機、受付
時間は9:30〜11:30/13:30〜15:30
期間以外は予約制で随時受付
お問い合わせ TEL 0172(52)3488(黒石観光協会)



松の湯交流館「お休み処」にて